

川内原発の再稼働は、これで消える！

地震調査委員会が指摘 川内原発直近の巨大活断層

反原発・かごしまネット 事務局 向原祥隆

鹿児島県薩摩川内市の川内原発1、2号機が、再稼働の一番手に上げられています。その理由は、「大きな活断層がない」からというものです。

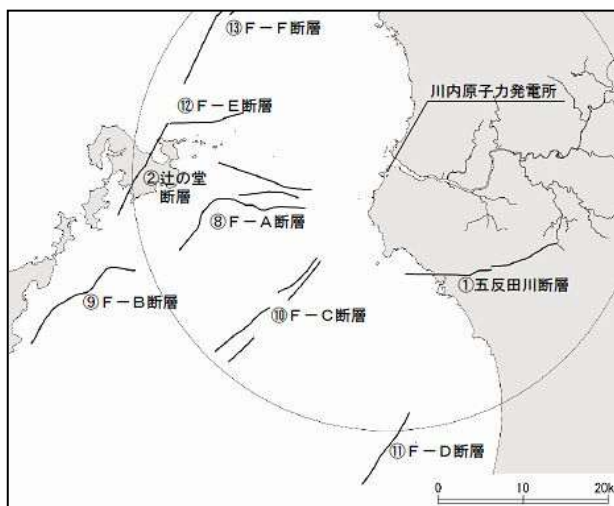
ところが、2013年2月1日、文部科学大臣を本部長とする政府の地震調査研究推進本部地震調査委員会は「(九電の活断層評価が)とにかくひどいものである」(議事録)という委員の意見とともに、原発周辺の活断層のこれまでの評価を大幅に見直し、さらに調査を求める報告書を発表しました。

1. 驚くべき地震調査会報告書

2013年2月1日、地震調査委員会は、全国の活断層再評価の第一弾として、九州の活断層16カ所について発表しました。2010年から進めてきたものです。

川内原発周辺の活断層については、詳細な記述があります。主に九州電力から生のデータ入手し、大学研究者を始めとする専門家が独自に評価したものです。驚くべきことに、この地震調査会の報告では、これまで九州電力が保安院に報告し、公表してきた活断層の距離が大幅に長く塗り替えられ、起こりうる地震の規模も最大1.1倍に大きくなったのです。

比べて見れば、一目瞭然です。下の図を見て下さい。



九電が示してきた断層図
(2010.1.7 保安院 WG3 第52-5号)



地震調査委員会が示した断層図
(地震調査委員会HPをもとに青木幸雄作成)

2. 地震調査委員会の評価

① 甑断層 (F-A断層、F-B断層)

地震調査委員会の示した断層図を見ていきましょう。

九電がF-A断層、F-B断層と二つに分けていたものを、甑断層としてひと繋がりのもので把握し直しました。活断層の長さは、九電のF-A断層1.8kmとF-B断層1.5kmを合わせたよりも長い3.9kmとしました。地震の規模は断層の長さによって決まってきます。長い

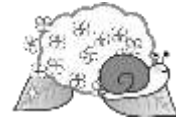
断層が地震を起こせば、それだけ大きな揺れになります。マグニチュードも7.5と、九電が想定していたより0.6も大きくなりました。マグニチュードは1大きくなると、地震規模は3.2倍になります。0.6大きくなると8倍の地震規模になります。

②甑海峡中央断層（F—C断層）

九電がF—C断層と呼んでいるものです。九電は細かい4本の線を引いていただけでしたが、地震調査委員会は断層の線を大胆に引き直しました。活断層の長さは、九電のF—C断層16kmよりもずっと長い38kmとしました。マグニチュードも7.5と、九電が想定していたより0.7も大きくなりました。九電の想定より1.1倍大きな地震が来ることとなります。

③五反田川断層

五反田川断層については、九電と同じ呼び名です。この断層は、九電がほぼ陸上部にとどまるとしていたのに対し、地震調査委員会は西方沖の甑海峡中央断層まで達すると見直しました。活断層の長さも九電の19kmから25kmへと長くしました。マグニチュードは九電の6.9から7.2とされ、地震規模は九電の想定より3倍大きくなります。



3. 衝撃の委員会議事録

①委員の発言「とにかくひどい」

さらに、地震調査委員会の議事録を見ると、衝撃的な言葉が並びます。

「（九電の）解釈はとにかくひどいものである」「最もひどいのは、地表面（海底面）にまで断層変異が及んでいるにも関わらず、断層の存在を全く無視していることである」とまで、委員は口にしてののです。これがこれまでまかり通ってきたことなのです。

②委員の発言「他にも活断層がある」

見過ごせないのは、「断層図を見る限り、今回指摘された箇所以外にも、多数の断層変異が認められる」「生のデータを見ると、『活断層が存在することは明らか』である」と述べている点です。これまで九電が示してきた以外にも活断層があるということなのです。

③委員の発言「F—Aの東端はどこか」

また、「例えば『F—Aの東端はどこか』などの読み直しが必要となる」という委員の発言もあります。F—A断層（甑断層）が東に延びる可能性を指摘するもので、延びれば川内原発に一層近づきます。「F—C断層がさらに北へ延びる可能性についてはどうするか」という委員の発言もあります。F—C断層（甑海峡中央断層）が北へ延びれば、これまた川内原発に近づきます。F—C断層が北へ延びF—A断層を止めている可能性も指摘されます。

九電は、こうした地震調査委員会の指摘を全く無視しています。

また、この4月、規制委員会は火山指針（案）を発表しました。これまでに入戸火砕流と阿多火砕流が、川内原発付近まで到達したことが明らかになっています。指針には、「検討対象火山の推定される最大噴火規模において、設計対応が不可能な火山事象が原子力発電所に到達する場合は、立地不適と評価する。」とあります。川内原発は、この火山基準によっても、廃炉にされねばなりません。

パンフレット（カラー16頁）

「川内原発直近の巨大活断層と幾度も襲った火砕流」

1部カンパ100円／10冊単位

注文先：反原発・かごしまネット

info@nanpou.com / FAX 099-248-5457